

## 福井県立青少年センター(1/2)

# 青少年センターは街中にある宿泊・研修施設です

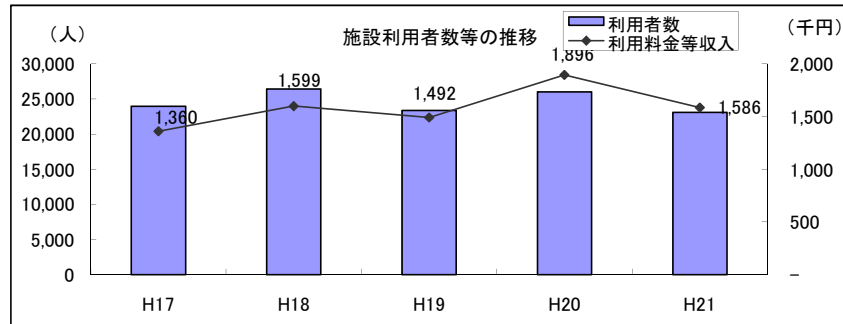
所在地	福井市福新町2505		
設置年月日	昭和45年10月1日		
施設の種類	宿泊・研修施設	施設管理主体	県
設置の目的	青少年を対象とした各種体験活動や研修会などを開催し、心身ともに健全な青少年の育成を図る。		
概要 (構造、面積、主な機能)	鉄筋コンクリート造3階他、延2,898.79㎡ 宿泊定員(70名)大研修室(120名)第1研修室(45名)第2研修室(30名)第3研修室(30名) 第4研修室(50名)相談室(10名程度)講堂(200名)		
職員数	職員8人(兼務職員3名含む)		

### 利用状況等

	H17	H18	H19	H20	H21
利用者数(人)	23,958	26,411	23,364	26,017	23,080

### 利用者負担(利用料金)等

宿泊料	26歳以上	880円
	26歳未満	530円
	高校生	390円
	小・中学生	270円



### 利用状況の推移

平成17年度からの利用状況を見ると、利用者数については約25,000人前後で推移していますが、利用団体数では平成20年度までの4年間で37%の増加がみられました。青少年センターは都市型教育施設として、幅広い年齢層の方々に利用していただいています。青少年および勤労青年はもとより、近年は大人の方々の利用が増加しています。

一方宿泊研修の利用者は平成18年度から年々減少しています。都市型教育施設として交通アクセス等の利便性が良い反面、自然体験等のプログラムに制限があるため、近隣の公共施設との連携による利用促進を更に図っていきます。

### 施設の特徴

#### 研修室・宿泊室の貸し出し

- 福井運動公園施設に隣接するため、各種の大会に参加する県内外からの宿泊団体や部活動の強化合宿等に利用されています。
- また、一般の各種団体の研修・宿泊研修・講演会・レクリエーションなどにも利用されています。
- 大学生(中学生)を中心としたボランティアリーダーの育成の場として活用されています。

#### 主催事業の開催

- 共同生活を通して自立の基礎を養い、協力し支え合える人間関係を学ぶ『合宿通学』や、ボランティアリーダーを養成する『ボランティアスクール』、施設を開放し、ものづくりや遊びを通して参加者相互の交流の場を提供する『交流ひろば』などを開催しています。



交流ひろば



合宿通学

### 青少年センターホームページ

<http://www.pref.fukui.jp/doc/seisvounen/index.html>

### 平成21年度の特徴について

#### 事業実績

- 共同生活を送りながら学校へ通う合宿通学(3泊4日・1回)、ボランティアリーダーを養成する研修会や施設開放の事業など地域に根ざした体験・交流活動を実施しました。  
【合宿通学は新型インフルエンザの影響のため1回のみ開催】
- 【合宿通学延参加者数:38人、ボランティアスクール参加者数:34名】
- 週末を利用し、異世代交流体験活動(ウィークエンドスクエア)を開催しました。(10回)  
【ウィークエンドスクエア延参加者数:56人】
- 企業や学校および各種団体を対象とした営業活動を積極的に行い、利用者の拡大に努めました。
- 主催事業の写真をセンター内の掲示板だけでなく、ホームページにも掲載し、事業内容を簡単に確認できるようにしました。

# 福井県立青少年センター(2/2)

## 行政コスト計算書(平成21年度) (単位 千円)

	総額	構成比	前年比	
人にかかるコスト	人件費	49,490	53.3%	94.0%
	退職給与引当金繰入	▲ 835	-0.9%	-1518.2%
	賞与引当金繰入	2,520	2.7%	99.0%
	計	51,175	55.1%	92.7%
物にかかるコスト	物件費	6,901	7.5%	109.2%
	維持補修費	1,994	2.1%	86.4%
	減価償却費	32,676	35.2%	99.9%
	計	41,571	44.8%	100.5%
その他	支払利息	0	0.0%	-
	その他	180	0.2%	124.1%
	計	180	0.2%	124.1%
合計	92,926	100.0%	96.1%	
収入	利用料等収入	1,586	1.7%	83.6%
	一般財源	91,340	98.3%	96.3%

## バランスシート(平成22年3月31日現在) (単位 千円)

借方			貸方		
資産		前年比	負債		前年比
有形固定資産	360,898	91.7%	固定負債	38,935	110.7%
うち建物	359,434	91.7%	うち退職手当引当金	38,935	110.7%
投資等	0	-	流動負債	2,520	-
流動資産	0	-	純資産	319,443	90.9%
計	360,898	91.7%	計	360,898	91.7%

## 主な指標 (単位: %、円/人)

	H21	H20	前年比
県民1人あたり有形固定資産額	446	484	92.1%
県民1人あたり将来負担額	48	43	111.9%
世代間負担率	88.5	89.2	99.2%

バランスシート、行政コスト計算書の特徴	<p>行政コスト全体では、前年度とほぼ同額となっています。</p> <p>施設利用団体が増加したことから、利用料金等収入が21%増加しています。</p> <p>資産は建物がほぼ100%を占め、減価償却分だけ前年度から資産が減少しています。なお、土地については、併設されている教育研究所の資産となっていますので、当センターの資産としては計上していません。(参考: 1,051,685千円(教育研究所および青少年センター))</p> <p>将来の財政負担要因となる負債は、退職手当引当金等のみで、県民1人あたり将来負担額も低い水準になっています。</p>
施設の目的上、管理運営上、主要な事業	<p>施設の維持管理や主催事業等の実施 (主催事業は職員の日常業務として実施) 【H22予算額: 約9百万円】</p>
今後の課題	<p>宿泊研修の利用者が、平成18年度から年々減少しています。都市型教育施設として利便性の良い点をアピールし、利用促進を図っていく必要があります。</p> <p>また、新規の活動団体の利用を増やすためのPRや、ボランティアの育成・確保による主催事業の充実も必要です。</p> <p>また、職員の資質を向上させ、他の青少年教育施設との連携や、主体的な事業を増やしていかなければなりません。</p>
今後の事業方針 取組み内容	<p>毎回参加希望者の多い事業の回数を増やしていく等、利用者ニーズを踏まえた主催事業を計画、実施していきます。</p> <p>地域に開かれた施設として体験活動や異世代交流の機会を提供できる事業を実施します。</p> <p>休日における主催事業を増やしていきます。</p> <p>ものづくり体験・労働体験・奉仕体験・礼儀作法体験など体験学習の充実をはかり、子どもの生きる力の醸成に積極的に取り組んでいきます。</p>

